

大事なのは丸い土俵から何を学ぶか (元横綱大鵬)

校長 桐野和之

猛稽古の甲斐あって入門から一年ほどすると勝てないと思っていた兄弟子たちに次々と勝てるようになって、自分の中で自信がつくのを感じました。そうなる面白いもので、入門二年目の昭和33年の春場所では、三段目全勝優勝を飾れるまでになったんです。だけど、辛いこともあってね。師匠が目をかけてくれているだけに、心身両面でのしごきが激しくなったんです。稽古中は土俵に叩きつけられたり、気を失いそうになって水をぶっかけられたり・・・。



それに加えて1日に四股500回、鉄砲2000回のノルマがありました。手を抜こうものなら、師匠にはすぐに分かる。いくらキツくても黙々とやり通す以外になかったんです。「なんで俺だけが」何度思ったことかね。

最初から稽古が好きな力士なんて誰もいません。だから、ウソばかり言っておまかししたり、ちゃんこ番に行きたがる。稽古は好きになるというより、遮二無二やらされるんだな。そのうちに欲が出てあいつに勝ちたいと思うようになれば、自分で進んでやるようになりますよ。



でもいま思うと懐かしいね。相撲の基礎は何と言っても四股、鉄砲ですから、それをみっちりやったことが後でどれだけ役に立ったか分からない。入門当時

183センチで体重71キロのガリガリだった私が相撲取りの体になったのも、この四股や鉄砲で鍛えたからなんです。相撲で必要なのは、ボディビルと違って弾力性のある柔らかい筋肉。それを鍛えるのはこの二つしかありません。

だから私ははっきり言う。誰もが夢だとか目標だとかいうけれどもそういうものではないよ。毎日同じことの繰り返しだよ。コツコツ、一つのことを根気強く続けるかだよ。農作業でもそうですけどね。北海道の広い畑を鍬で耕そうとすると、前を見て「まだこんなにあるのか」と思うけれども、毎日コツコツ耕していたら、だんだん起こした部分が広くなり、喜びに変わるわけだから。大事なのは何の変哲もない丸い土俵から何を学ぶかということです。

まずは根気でしょう。努力して何ものにも負けない精神力を学ぶ。

相撲はこの一番、この一秒がすべてです。一番で明るくなるか、暗くなるかのどちらかです。そのためには一つの稽古を大事に丁寧にやるかどうか。最後はそこに結びつきますね。もちろん最初からそういうことは分かりません。序の口、序二段、三段目と番付が上がってくるにつれて一瞬の勝負のために毎日稽古を積み重ねることがどれだけ大事かを少しずつ体で覚えていくわけですよ。



特に横綱である以上は必ず勝つことが使命です。私の根性むき出しの相撲を嫌がる人もいたし、勝つだけが能じゃないという人もいるが、勝たなきゃ意味がない。師匠もいろいろな意味で厳しかったから「お前は負けちゃダメなんだぞ」と言い聞かせられていましたね。

あきら

諦めない心

もう30年以上前の話です。自分のクラスに〇〇大学付属の私立高校への進学を希望している男子生徒がいました。第一希望の高校でしたので、三者面談をするとその学校名が一番出てきます。当然だと思いました。ただ、推薦での受験を希望していました。三者面談では、推薦の基準が話題になりました。その生徒の成績は基準に近いものがありましたが、残念ながら基準には達していませんでした。そのため、一般での受験をするしか受験の方法がありませんでした。

本人は推薦でなければ「合格する自信がない」と面談で愚痴をこぼすように話しをしました。ただ、担任である自分からは、本当に進学したいのであれば一般受験に回ってでも、自分が一番に希望する学校を受験すべきだと助言しました。本人は自信なさそうに、私の話を聞いていても何となく上の空のようすでした。



しかし、本人の持っている実力からすると確かに合格する確率は低いのですが、絶対に不合格になるとは言い切れない力を持ち合わせていました。だから努力によっては合格の可能性があるとは私は考えていました。希望校を変更して他校を受験するのか、それとも一般受験に回って希望する学校を受験するのか。その生徒は相当悩んだと思います。

本来受験はあくまでも点数勝負です。当日の入試得点、個人の面接点しだいで合否が決まります。本当に進学したいと思う強い希望があるのであれば「悔いが残らないように」頑張っても良いのではないかと担任として思っていました。

結局、本人は一般受験にかけることになりました。そこからは猛勉強です。夜遅く、時によっては夜中の1時、2時まで勉強したこともあったようです。受験が近づいてくるに従い眠い目をこすりながら登校して来るようすがうかがえました。



結果は合格。発表の日に喜び勇んで学校に報告に来ていたその生徒の表情を今でも思い出すことがあります。

受験は本来実力勝負が基本です。と同時に何が起こるか分かりません。たとえ推薦で受験をしても「絶対に合格」ということはありません。受験に絶対ということはないのです。だからこそ受験生である三年生の皆さんには最後の最後まで気を緩めることなく、「諦めない心」をもって臨んでほしいと思います。頑張ってください。

2023.12.1 読売新聞

「自閉症を持つ私から見た日常」

大阪府・大阪青凌中3年 藤田 壮真

私は重度自閉症である。いつも叫び出したい衝動を感じている。でも叫ばない。叫んではいけないと学んだからだ。この作文で私から見える世界を、みんなに共有したい。



小学校は支援級に在籍していたが、現在は中高一貫で少人数制の私立中学に通っている。4歳の時に注意欠陥多動優勢の自閉症スペクトラムと診断を受けた。小学6年生の時に身長が止まり、成長ホルモンを毎日注射している。身長は146センチで15歳男子平均より20センチ以上低い。

家族とファミリーレストランに行くと、店員が「子供椅子はいりますか」と笑顔で聞く。耐える私に、今度はキッズメニューを差し出してくる。見た目で判断しないでくだ

さい。そう伝えたいけれど、見た目で子供なのだから、店員を責められない。やりどころの無い怒りを抱えて私は黙る。

私は授業中によそ見をしてしまう。宿題のお知らせを聞き逃し、やってこない。不真面目で意欲を持っていないと評価される。悲しい出来事で、何度も泣いた。

真面目に授業を受ける気持ちで座っているが、教室はその気持ちを阻む様々な情報であふれている。クラスメイトの動きやきぬ擦れの音がとても不快な音でジャリジャリと聞こえる。ノートの上を動くシャープペンシルの音は不協和音で合奏している。エアコンの音がごおごおと鳴り、隣の教室からも似た物音が聞こえてくる。等々きりが無い。

私はいつも叫び出してしまいそうで、疲れ果てている。先生の声は、200メートル先の、遠くのトンネルの向こうから聞こえる感じで、なかなか拾えない。

自閉症なのによく喋ることが出来るね、と言われる事がある。私は人と関わるのが大好きであるし、お喋りも好んです。だがコミュニケーションがしっかりとれているわけではないようだ。私を母はたまにラジオと呼ぶ。一方的にしゃべって満足してしまうからだ。人の気持ちを読み取るアンテナが通常なら5本立っているならば、私は1本しか立っていないからだ。

私は自分の気持ちも分からない。心を自分に感じない。だけど、相手を泣かせた時は、私の目から涙が出てくる。悲しい気持ちだと教わるけれど、なかなかつかむことが出来ないでいる。



自閉症の子供が産まれて、悲しむ家族もいるだろう。でも私達は学ぶし、成長する。人の気持ちが分かりにくいけれど、人が嫌いではない。小学校では床で寝転んでいたが、今は椅子に座り、必死に勉強している。

私達にはみんなと同じだけの未来があり、期待を持っている。私が間違った時は、あきらめないで教えて欲しい。私もこの困難な世界に向き合い、痛みを知っているぶんだけ、弱さを持っているぶんだけ、他の誰かに優しくなれる大人になりたいと考えている。

創造超えた事実 教える

外見や行動などで誤解されることの多い自閉症。その実際を知ってほしいとペンをとった藤田さんは、我々の想像を超えた事実を次々とつづっていきます。「みんな違って、みんないい」などといいますが、お互いを知り理解しあった上でのこと。そのために作文がとても役立つことも教えてもらいました。（石崎洋司）

A L T バーンズ先生にインタビュー

- 1 生年月日を教えて下さい。
 - ・ 1988年（昭和63年）1月10日です。
- 2 出身地はどちらですか。
 - ・ アメリカ合衆国、ノースカロライナ州です。
- 3 あなたの国の素晴らしいと思う文化はどんなところですか。
 - ・ アメリカのクリスマスはとても素晴らしいと思います。特に家族との食事は大切です。クリスマスには家族だけでなく、親戚の方々も大勢集まってお互いに一緒になってお祝いをします。料理の一端を紹介するとターキー、マッシュポテト、グリーンビーンキャセロール、ピーカンパイなどです。
- 4 日本に来てどれぐらいですか。
 - ・ 5年目です。
- 5 日本の食べ物で好きなものは何ですか。



- ・明太餅チーズもんじゃ焼きが大好きです。他にはツナマヨおにぎり、お寿司です。お寿司は醤油を付けないでわさびとネタを味わうことが好きです。
- 6 貫井中の給食で好きなメニューは何ですか。
 - ・一つを選ぶことはできません。あえて3つあげてくださいと尋ねたところ、カレーライス、ししゃも、練馬スパゲッティーとお答えいただきました。
- 7 日本の文化で素晴らしいと思うものは何ですか
 - ・日本のキャンプ文化が好きです。日本のキャンプ文化は本当に平和です。キャンプで出会った人は皆優しいです。アメリカはクモやヘビがいるし、パーティーをしている人たちがたくさん居てうるさいです。日本でのキャンプは、静かで自然を満喫できるところが好きです。
- 8 日本の好きな場所はどこですか。
 - ・日本の熱海が好きです。特に熱海のくねくねした自然の道や、たくさんあるお店が好きです。
- 9 貫井中をどう思いますか。
 - ・彼らはエネルギーに満ちています。そのエネルギーを夢に向かって向けることができれば、彼らは世界で何でもできます。
- 10 貫井中の先生方をどう思いますか。
 - ・チームワークと優しさが、この学校を楽しいものにしています。何だかラッキーな気分です。
- 11 貫井中学校をどう思いますか。
 - ・清潔で照明も明るいです。安全で楽しいです。今のままの貫井中学校でいてほしいです。

私の学習方法 ～シリーズ①～

国語科教諭 横須俊哉

生徒のみなさんにとって、横須と言えば「何でもできるハイパーイケメンウルトラ天才国語科教諭」という印象でしょう。しかし、中学生時代の私は国語が苦手でした。そんな私は将来国語の教師になることなど夢にも思わず、得意だった数学の教員を目指します。しかし、色々あって数学の教師ではなく、国語の教師になりました。（本当に色々ありました）そんな私が学生時代に身に付けた学習方法についてお話しします。

最も大切なことは、【物事に疑問をもち、理由を探す姿勢】です。例えば、1月の月の異名「睦月」は、なぜ「睦月」というかご存じですか？諸説ありますが、新年の挨拶で親戚同士が集まり、「睦み合う（仲良くする）月」だからと言われております。ちなみに、“睦”という漢字の左側の部分は“目”を表しており、右側の部分は“寄せ集まる”ということを表しています。「目を合わせて寄せ合う」ということが転じて、「集まって仲良くする」という意味の漢字ができました。このように、物事にはそのようになった理由が存在します。「物事に疑問をもち、理由を探す」ことで、いわゆる「思考力」が鍛えられます。思考力が鍛えられれば、初めて読む物語文で主人公の行動の理由を問われたときに理由を考えられますし、難しい論説文で筆者の意図を問われたときも根拠をもって読み解くことができるでしょう。



疑問をもてる「物事」とは、教科だけではありません。なぜ「富士見台」という駅名なのか？この曲名に使われている言葉の意味は何なのか？なぜ日本の車道は左側通行なのか？などなど・・・世の中には様々な疑問があるでしょう。もちろん、自分が好きなものにも様々な理由が隠れているでしょう。そこから疑問をもち、理由を探して思考力を鍛えることで、理由や根拠を問われる国語の「読み解く力」は身に付きます。みなさんも、周囲の物事に疑問をもち、理由を探して思考力を鍛えましょう。